

**子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業 採択団体一覧表<事業概要>**  
 採択団体…85団体 <事業1>…8団体 <事業2>…64団体 <事業3>…13団体

番号	事業	採択団体名 事業名	校種	事業概要
1	1	<b>福島県立会津学鳳中学校・ 高等学校美術部</b> 「思い出アートと漆の出会い」 プロジェクト ～会津桐の年輪で飾る～	中高	美術部員たちが復興公営住宅を訪問し、被災された住民の方たちからふるさとの思い出写真（家族、住まい、景色等）を見せていただき、交流を兼ねてそこに込められた深い思いについて伺う。 特に思い出深い写真を1枚選んでいただいてお借りし、それを部員たちの手により小さな絵画として仕上げる。 絵画と会津産の桐に拭き漆を施した工芸的な額縁とを組み合わせて完成した作品を、住民の方たちに直接お届けにあがり交流する。
2	1	<b>福島県立福島工業高等学校吹奏楽部</b> Energy for Tomorrow ～音楽で届けたい明日への力～	高	平成29年3月31日に浪江町において、一部地域を除いて住民が町に戻り生活を始めた。これを受け、浪江町出身で福島工業高校卒業生（在学時吹奏楽部）の発案で、3月31日に浪江町で演奏会を開き、若い人たちの力で地域住民の方を応援し、町に帰る人が少しでも増え、浪江町がますます発展していくことを祈念する、という企画をした。その生徒を含め、東日本大震災当時浪江小学校、浪江中学校、浪江東中学校、浪江高等学校で吹奏楽部員だった者と、生徒の母校にあたる福島工業高校の現吹奏楽部員とで平成30年3月31日（土）、浪江町地域スポーツセンターにおいて第一回の演奏会を開催し、成功させることができた。来場者には、心から喜んでいただき、ぜひ今後も引き続き演奏会を続けてほしいという要望もあった。生徒は、浪江町を心から愛しており、今後も演奏会を続けたい気持ちでいる。 浪江町地域スポーツセンター、福島市近郊のコンサートホール、計2カ所での復興祈念演奏会を実施する。
3	1	<b>郡山市立桑野小学校</b> 避難者・地域の子どもや大人との交流を通して、未来に向け大きくふみだす 子どもの育成	小	①仮設住宅住民（富岡町）との交流 ②地域の一人暮らしの高齢者との交流 ③地域の学校（郡山6中）の生徒、保育所（桑野保育所）の園児との交流
4	1	<b>ナーサリールームまんまびあ本園</b> 被災者・避難者の方との交流を通して 園児たちが様々な体験をする	幼	① 若宮前仮設住宅住民（富岡町・双葉町・川内村）との交流 ・仮設住宅を訪問し、住民と一緒に花植えの活動をする。 ・仮設住宅の住民を保育園の行事に招待し、行事に参加していただいたり子どもたちが制作したものをプレゼントしたりする。 ② 富岡町立養護老人ホーム東風荘住人との交流 ・老人ホームを訪問し、老人ホームに植える花を持参し、交流する。 ③ 富岡町の学校法人堀内学園が開設した「菜根認定こども園」との交流 ・認定こども園を訪問し、こども園と一緒に花を植えるなどの活動をする。
5	1	<b>郡山市立桃見台小学校</b> 笑顔と花で元気をおくろう ～ぼくたち、私たちが復興の担い手に～	小	(1) 若宮前仮設住宅住民との交流 ・花苗を植えたり交流会を開いたりする。 (2) 公園復活作戦 ・除去土壌等が集められ、8ヶ月間使用できなかった公園を地域の方や若宮前仮設住宅の方々と一緒に花苗を植える活動をする。 (3) 復興アピール作戦 ・花を通しての交流状況を広く発信する。
6	1	<b>桜の聖母学院高等学校 インターアクト部</b> SEIBOインターアクト復興応援活動	高	浪江から避難して、仮設住宅にいらした人たちと2年間に渡り交流してきたが、昨年度より復興住宅で交流を続けている。今年も活動を継続する。また、宮城県の間上地区を訪問し他県の復興の状況を見学する。
7	1	<b>福島県立光南高等学校 応援団・チアリーダー部</b> 応援団・チアリーダー部 ～被災者・避難者応援プログラム～	高	矢吹町主催のフロンティアまつりに出演する本校応援団・チアリーダー部の発表に、矢吹町在住の被災者や避難者を招き、被災者・避難者、本校生徒、矢吹町民三者の交流を深める。

8	1	<p style="text-align: center;"><b>富岡町</b> 関係人口ふやす 「つくる学校プロジェクト」事業</p>	小 中	<p>東日本大震災から7年の歳月が経過し、子どもたちは富岡町での生活の記憶を思い起こすことが非常に困難になってきている。また、震災後生まれた子どもや新たに富岡町の住民となった子どもも通ってくるようになり、これまで以上に学校と地域が一体となり、町全体で子どもを守り育てる仕組みの構築が急務でもある。この現状を踏まえ、富岡町立の小・中学校で学ぶ子どもたちに富岡町の歴史や文化を学ばせるにあたっては、ただ調べて発表するだけの学習に留まることのないように、町内にある資源（ヒト、モノ、コト）を有効に活用した学びを構築していきたい。今回は、学校再開一期生となった子どもたちが、学校内に設置した交流スペースで使用する長テーブルを町に戻ってきた地域住民と一緒に製作し、永くそのシンボルとして残したいと考えている。その製作に当たっては各界のプロを招聘し、子どもたちが専門的な指導を受けるとともに、本物の技術や知恵、仕事に対する姿勢等に触れる機会としたい。また、テーブルの素材には震災前に伐採され保管していた陸前浜街道並木の赤松を使用する。共同作業中の地域住民の言葉や態度を通して、子供たちが富岡町への理解を深め、地域の歴史と文化を継承すると同時に、地域住民に活気や勇気を与えることを目的とする。</p>
9	2	<p style="text-align: center;"><b>福島県立岩瀬農業高等学校</b> <b>国際交流振興会</b> 第11回国際交流海外派遣事業</p>	高	<p>今日、国際社会は、科学技術の驚異的な発展によって交通・通信が緊密化し、世界がますます狭くなる中で、いわゆる「人」、「物」、「情報」の交流が活発に行われ、世界の諸地域は、その相互依存関係を一層深めつつある。まさに国際化時代の到来である。このような中であって、人と人、国と国とが、相互に尊重しあえるグローバルな視野と心をもった人間性豊かな青少年を育成することは、平和な国際社会を築く上で極めて重要なことと考える。</p> <p>このようなことから、本校においては国際化時代に生きる生徒の教育を行うにあたり、「牧場の朝」の縁から平成10年にオランダのウェラントカレッジと姉妹校締結し、交流を行ってきた。平成22年までは一年おきに互いの国を訪問して交流を深めてきたが、平成23年の東日本大震災の発生により、オランダからの訪問は中止となり、それ以来オランダ側からの訪問はなくなった。以後は本校からの一方的な訪問となり、平成26年度、平成28年度と、2年に一度オランダを訪問している。平成27年度に姉妹校締結が解消したものの、今年度は通算11回目のオランダ訪問を予定している。震災後7年が経過した今年、被災して使用できなかった学校農場施設もようやく全面的に復旧した。オランダは世界の農学の先端を走る国であり、原発事故後の本県農学に対する抵抗感は、たいへん根強い。このことから本県農学をオランダの学校にアピールし、交流活動を行うことにより本県農学に対する風評を払拭し、復興もPRしたいと考えている。合わせて本校の実際に行う人的交流の中で、国際的視野に立てる人材を積極的に育成することも目指す。</p>
10	2	<p style="text-align: center;"><b>川俣町立福田小学校</b> アンスリウム東京PR大作戦</p>	小	<p>福田小学校は5年前から現職教育で生活科・総合的な学習の研究を進めている。その中でも、特に「ふるさと学習」に力を入れ、地元福田地区から川俣町の自然や伝統文化・特産品等を取り上げ、子どもたちによる課題解決学習をメインに研究を進めてきた。昨年度の5・6年生は川俣町の特産品になりつつある花「アンスリウム」について調べ、川俣町KIDS PR隊としてアンスリウムのよさや川俣町のよさを広く社会に広める活動に取り組んだ。アンスリウムについて調べるだけでなく、実際に栽培体験をしたり、川俣町が提携を結んでいる近畿大学の協力を得て、アンスリウムのゆるキャラ「スリンちゃん」を作成したり、福島駅でPR活動をしたりと活動はどんどん深みを増していった。活動の深まりとともに、思いをより一層強いものとなり、子どもたちはアンスリウムをもっと多くの人に知ってもらい、福島復興のシンボルとして2020年の東京オリンピックのシンボルフラワーになって欲しいという願いをもっている。そこで、今年度は昨年度の子どものたちの思いの引継ぎ、願いを叶えるべく東京でのPR活動を計画している。昨年度の福島駅でのPR活動の反省にたち、チラシやティッシュ等の周知GOODSも作成し、より内容の濃い活動にしていけたらと考えている。</p>
11	2	<p style="text-align: center;"><b>小野町</b> 沖縄県立八重山高等学校と 福島県立小野高等学校との友好交流事業</p>	高	<p>平成28年度に小野高等学校と友好協定を締結した沖縄県立八重山農林高等学校との友好交流事業を実施し、環境も文化も異なる地域の高校生同士が、相互理解と親睦を深める機会を設けるとともに、震災から復興している「ふくしま」の実態について、高校生自らが伝え、感じてもらう。また、小野高等学校の家庭クラブが町内産農産物を使用して開発した6次化商品や、町の特産品を生徒自らが紹介し、食べてもらうことで福島県産農産物のおいしさと安心・安全についてもPRする。当事業は、参加した生徒が、この事業を通じて郷土愛を醸成し、本県・本町の将来を担う人材として成長することを目的とする。</p>
12	2	<p style="text-align: center;"><b>須賀川市立第三中学校</b> 首都圏へGo！須賀川市の伝統文化・ 復興を発信しよう！</p>	中	<p>修学旅行の班別自主研修を活用し、震災以降の須賀川市の、復興に向けて頑張ってきたことや、素晴らしい伝統や文化等を、自分たちで製作・運搬して盛り上げる日本三大火祭りの一つ『松明あかし』を中心に、都内各所で自作パンフレットを使ってPRする。</p> <p>この発信事業のパンフレット作成・PR活動を通して、キャリア教育における生徒の基礎的・汎用的能力を伸ばし、将来の福島県（須賀川市）を担う郷土愛に満ちた生徒を育成する。</p>

13	2	<b>国見町</b> 国見ジュニア応援団	小中	ふるさとの歴史や文化・産業製品について学び、県外に発信し、風評被害の払拭と福島復興のPRを行う。 また、岩手県平泉町、岐阜県池田町との親善交流を図る。
14	2	<b>田村市立滝根小学校</b> 大好き滝根、ふるさと発信プロジェクト ～滝根の自然・復興を伝えよう～	小	6年生は、これまで滝根町の鍾乳洞や星空、水や動植物などの豊かな自然を総合的な学習で追究し、地域に発信してきた。また、3年生も震災からの復興について「もの」「人」「こと」を中心に追究活動を行う中で滝根町商工会女性部の皆さんが再興した名物「きむコロ」に出会い、観光の町滝根を再興させようとする地域の皆さんの熱い思いにふれた。そこで、6年生が学校代表として、これら学習成果と滝根町のよさを修学旅行先の仙台で広くPRする。また、これらのPR活動の成果や新たな追究活動の結果を学習発表会の場で地域の方々へも発信し、大好きな滝根町のよさを広げていく。
15	2	<b>鬼ヶ城太鼓保存会</b> 鬼ヶ城太鼓	中高	地域の伝統的芸能である「創作鬼ヶ城太鼓」を引継ぎ、太鼓の技術向上に取り組むことで、地域の活力の向上並びに地域の文化の向上及び発展に寄与するとともに、福島や地域の復興の状況、またそれに向けての取り組みを首都圏で生活する方々に伝える。 ・いわき市立桶売小中学校運動会や文化祭での発表 ・いわきの里 鬼ヶ城 収穫祭での発表 ・川前地区敬老会での発表 ・その他 地域等の要請による発表 ・東京のホールでの発表（和楽器集団「鳳雛」とのジョイントコンサートを通して、首都圏に住む方々に福島県いわき市の復興を伝える。）
16	2	<b>会津若松市子ども会育成会</b> あいづっこから広がる交流事業	小中	会津若松市子ども会のリーダーを目指す子ども会会員を対象に「蒲生氏郷ゆかりネットワーク共同宣言」を調印する滋賀県日野町を訪問し、現地での子ども同士の交流を図るとともに、風土の異なる日野町で会津との歴史的なつながりや文化を学ぶ。 また、子ども達が日野町の子ども達に何を伝えたいか、何を学びたいか自分達で考える場を設け、福島の震災からの復興や、会津の為に何が出来るのか地元の復興の為に自分達で何とかしようという自発的な気持ちの向上を図ること目的とする。加えて、集まった仲間達との班活動を通して、仲間作りの方法を習得し、よりよいジュニアリーダーとなることにより、地域子ども会活動を活発にし、地域への貢献をする。
17	2	<b>Seeds+</b> 元気を音楽にのせて ～福島からキックオフ！～	小中高	同じ被災地である長崎（放射線災害）と熊本（地震災害）で、福島の今の状況を知る報告会や元気を発信するコンサートを開催し、復興をアピールする。 ○福島の今 報告会 ○被災地報告会（連携団体による） ○復興支援映画「MARCH」上映 ○元気発信コンサート
18	2	<b>郷人</b> 記憶を繋ぐ。復興へそして未来へ	小中高	東日本大震災により多大な被害を受けた福島県と、2016年4月に発生した熊本地震により震災を経験した福岡県において、同じ震災被害を体験した子供たちが、お互いの体験を用いて互いに震災への理解を深め、復興への歩みと一人ひとりが描く将来や故郷の未来を創造し、それに向かって行動することが一人ひとりの成長へ繋がるよう談話会を開催し、視野と見聞の拡がりを促します。 また、福岡県における風評被害を振り払い、福島と会津の活性化に貢献できるよう、会津の魅力と歴史をふんだんに取り入れた当団体のよさこい踊りを、多くの福岡県近県チームや、アジア諸国の人々が参加するイベントにおいて披露し、積極的に広くアピールすることで、地域活性化に寄与します。
19	2	<b>福島県立会津高校父母と教師の会</b> 目指せ！一歩前に踏み出す“AIZU高生”	高	復興と未来を担うグローバルリーダーとなるため、ふくしまの現状を踏まえた課題探究活動に取り組み、復興のあり方をグローバルな視点から考察し、ふくしまの未来につながる提案を行う。そのために、浜通りを中心とする被災地へのフィールドワークや他県の高校生との交流において、福島県の現状を発表するなどの体験的な活動を実施する。
20	2	<b>福島県立船引高校PTA</b> 地域復興 ～船高アクティブリーダー育成プロジェクト～	高	船引高校が復興に関する田村市のイベントにおいて、今まで田村市都路町の復興に関して、現地の方々との話し合いや調査により、考えをまとめたものを、掲示、発表、アンケートを実施し、高校生として田村市の復興について発表し、話し合うことでさらに考えを深める。また、それをWebでの発信、校内発表などを通して、復興に邁進している地域に貢献し、復興に必要な資質・能力を身につけることを目的とする。
21	2	<b>飯館村立飯館中学校</b> ふるさと学習 ～飯館中学校ホストタウン プロジェクト～	中	本校では、「飯館中学校ホストタウンプロジェクト」としてふるさと学習を推進する中で、一人一人の生徒が、ラオスとの交流に向けて自分にできることを考えて課題設定をし、その課題に対して探究的な学びに主体的・共働的に取り組むことで、自ら考え、判断し、行動を起こすことができる力を育てたいと考えている。さらに、この活動を県内外の学校との交流や様々な機会でも発信することにより、飯館村や福島県の復興につなげていきたい。 また、田植え踊りの伝承を全校生で行い、地域の伝統を全国に発信したい。

2.2	2	<b>福島県高等学校文化連盟</b> <b>福島県高等学校総合文化祭</b> <b>活動優秀校公演</b> ～ふくしまをつなぐ2018～	高	<p>平成27年度より、県民の皆さまのご支援に対する還元と文化芸術活動で躍動する本県高校生の姿を通して、元気なふくしまをアピールし高校生の元気を県民に向けて発信することを目的とした「福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演」を開催することとなった。</p> <p>また、活動優秀校公演では、開催地区生徒実行委員会が中心となり「復興とこれからのふくしま」をテーマとした活動を企画・運営を行っている。</p> <p>これらの高校生の視点による独自の活動は、震災の記憶風化が懸念されている現在において大きな意味をもつものとなっている。</p>
2.3	2	<b>復活！高倉人形プロジェクト</b> <b>実行委員会</b> 「高倉人形・人形浄瑠璃体験ワークショップ」	小 中	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小・中学生を対象に参加者を募集し、西川古柳氏（八王子車人形西川古柳座五代目家元）及びさっぼろ人形浄瑠璃芝居あしり座を講師として、年間を通じた稽古により、かつて地元で行われていた人形浄瑠璃（高倉人形）の特殊な操作方法である「三人遣い」を学ぶ。</li> <li>2. 同様に活動している札幌の子どもたちと交流をし、これから進むべき将来像を模索し、研修を深める。</li> <li>3. 発表会を開催し成果を発表する。</li> <li>4. 今後継続的に活動を続け、福島県の代表的な民俗芸能として人形浄瑠璃の伝承者を育成する。</li> </ol>
2.4	2	<b>西郷村立川谷中学校</b> 川谷中学校 総合的な学習の時間 「F TIME」	中	<p>「Frotier, Friendship, Family and FURUSATO」を総合的な学習の時間のテーマと掲げ、一昨年度より今までの郷土学習に加えて、「川谷を愛し、川谷を発展させるために、中学生の自分たちが貢献できることを行い、川谷のよさを全国に広めたい」と、地域おこしの学習を進めてきた。</p> <p>この学習のきっかけとなったのは、原子力災害以降の風評被害である。温泉利用客や観光客の減少、原乳の出荷停止や牧草の給与停止、野菜などの農産物の販売量の減少、地域の農産物の直売所の売り上げの減少など大打撃を受け、いまだに苦しんでいる住民もいる。住民の数が少ない地域の中での本校の役割は大きく、地域の復興を後押しする活力源となる存在である。</p> <p>昨年度は7つの班編成を行い、それぞれの班が川谷のよさや課題を発見し研究活動を進めてきた。東京で行われたツーリズムEXPOジャパンにおいて、川谷の特産物である馬鈴薯を使ったオリジナル料理のレシピを配付したり、温泉のPR動画を放映したりする機会をいただいた。</p> <p>今年度3学年では川谷の魅力を発信するため観光客への観光ガイドを実際に行い、さらに質の高いPR動画の作成など広報活動を行いたいと考えている。可能であれば今年度も東京において、研究成果の発表やPR活動を行いたいと考えている。2学年は自然環境保全のための水質調査、開拓の歴史の映画や写真作成、川谷の特産物を使った新たな商品開発を行う。1学年は馬鈴薯を使った新たなオリジナル料理の開発を計画している。</p> <p>川谷の「開拓の精神」は、「あきらめない心」「粘り強い心」「挑戦する心」である。これまでの課題研究活動を通して、生徒自身がこの「開拓の精神」をもって、地域へ貢献したいという強い思いを抱いている。生徒たちが地域に貢献することは川谷地区に元気を与え、「開拓の精神」や川谷の魅力を様々なかたちで県内外に発信することで、川谷、西郷、延いてはふくしまの真の復興に繋がると考えている。</p>
2.5	2	<b>相馬ながれやま踊りJuniorの会</b> 相馬ながれやま踊りJuniorの会による 福島の魅力発信事業	中 高	<p>南相馬っ子が、関西・北関東・南関東へ出向いて郷土の伝統芸能を披露すると共に、パネルや冊子を通じて「福島の今」や相馬野馬追祭りなどの「福島の魅力」を紹介する。</p> <p>特に、兵庫県神戸市では、阪神淡路大震災を乗り越え生まれ変わった神戸市を歩き、復興への足跡を学ぶ。また、神戸市での会場はショッピングや観光客の最も多い所を予定している。同会場では、福島の桃もPRする。</p>
2.6	2	<b>福島県立安達高等学校PTA</b> ふくしま復興推進事業	高	<p>県内の高校の中で唯一のユネスコスクール認定校として、本校での取り組みや福島県の現状について、本校生が現地の人たちに情報発信することを通して、被災県ふくしまの復興をアピールし風評を払拭するとともに、ふくしまの魅力を伝え、福島県に関心を持ってもらう。</p>
2.7	2	<b>会津若松市立大戸中学校</b> 東京・横浜でのふくしま復興 アピール活動	中	<p>9月12日（水）から3日間、東京方面に修学旅行を行い、班別自主研修で都内の事業所見学・訪問等を行った際に、福島の安全な状況を事業所の方々にアピールする時間を設ける。</p> <p>また、10月下旬に行われる町内・校内文化祭でその様子を地元の人に発表する。</p>
2.8	2	<b>国立大学法人福島大学</b> 福島市高校生フェスティバル	高	<p>子どもたちは、社会の現実的な課題に取り組むことにより、コミュニケーション能力や企画力、実行力、協働能力、リーダーシップなどの現代で必要とされているコンピテンシーを伸ばさせる。子どもたちが主体となり、高校生同士、行政、民間をつないでフェスティバルを開催し、東日本大震災以降の福島に置かれている現状と希望を共有し、外部に対して正しい情報を発信する。また、福島市のまちづくり事業に若者の声を反映させる機会をつくる。</p>
2.9	2	<b>富岡町立富岡第一・第二中学校三春校</b> 総合的な学習の時間学びの発信 ～静岡市立観山中学校との交流～	中	<p>8月30日から8月31日まで実施する静岡市内中学校との交流の中で福島県の復興を発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 総合的な学習の時間での学びを中心に、被災地の現状等を発信する。</li> <li>(2) 現地中学校と交流活動をし、復興を発信する。</li> </ol>

30	2	<b>喜多方市立第一小学校父母と教師の会</b> 「音楽と花の力で絆づくり」事業	小	東日本大震災で被災した富岡町から三春町平沢地区に避難している方々及び児童と保護者の方々に年間継続的に演奏会と花のプレゼントを通じた交流会を開催し、絆づくりを図る。
31	2	<b>棚倉町立棚倉中学校</b> 神奈川県（鎌倉）IN棚倉町の頑張り、 素晴らしさ発信事業	中	修学旅行の自主研修を活用し、震災からこれまでの間、棚倉町が頑張ってきたこと及び素晴らしい伝統や文化等を、鎌倉市において、自作パンフレット等によりPRする。 本発信事業のPR活動が、棚倉町教育委員会が推進するキャリア教育における基礎的・汎用的能力育成の機会と捉え、将来の福島県を担う郷土愛に満ちた生徒を育成する。
32	2	<b>MJCアンサンブル</b> 震災を乗り越えて 復興とその先の「夢をうたう」	小 中 高	○福島から生まれた「群青」「雲のかなた」を各地で演奏し、震災を歌声にのせ伝えます。 ○地域・家庭においても改めて3.11を見つめ直し、学びます。 ○被災地目線のPVを制作し世界各地の交流団体に視聴してもらい、復興をアピールします。 ○日本の中心拠点である東京で演奏会を実施し、震災の風化を防止します。
33	2	<b>いわき市</b> いわき志塾 長崎派遣	中	市内中学生のうち公募で選ばれた生徒が、本市同様に放射線被害を受けた長崎市と平和学習を中心とした交流体験を通して、東日本大震災での経験、福島の現状、いわき市の復興状況及び今後の展望を発信する。
34	2	<b>福島県立福島商業高等学校生徒会</b> 福商復興PR課	高	震災から7年が経過し、本校の生徒会活動や家庭科、社会科の授業などで生徒たちからの声を聞くと相当風化が進んでいることがわかる。高校生は、震災当時、小学生の3～5学年であったこともあり、震災が記憶に残る最後の世代ともいえる。 しかしその一方で、自分たちの震災体験を風化させないだけでなく、福島の未来に、そして首都直下、南海トラフ地震などを心配する地域や人々に自らの体験を生かしていきたいという声も多い。 本事業では、「ふくしまの今を知る」「震災体験を復興に生かす力を深める」、「専門性を生かす」といったフィールドワークを通じて、一人ひとりが復興を支える担い手になる。
35	2	<b>福島県立福島高等学校SSH部</b> 福島高校SSH台湾研修旅行	高	これからの日本を支える重要な課題の1つがグローバル社会に適応できる人材育成であり、グローバルスタンダードである英語を使える人材の育成は福島復興を考える上でも喫緊の課題である。加えてそれらの人材に「地域創生の使命感」「学んだことを正しく発信する力」「科学を探究する心」を同時に身につけていくことが重要であると考え。そこでこの取り組みでは、台湾の高校生と学校交流を探める中、スーパーサイエンス部としての取り組みの成果を発表するとともに、福島の現状を高校生の視点で正しく伝える機会を設ける。これら交流活動を通して、福島はもちろん台湾生徒の福島への理解を一層深めるとともに、福島に対する風評払拭の一助としたい。 また、生徒が、将来の国際社会で活躍する科学者、技術者への夢や使命感を獲得し、将来への国際的ネットワークの基礎を構築すること、郷土愛をもった人材になることを目的とする。
36	2	<b>福島県立平工業高等学校ラグビー部</b> 復興から、力強い歩みで、 夢をつかもう！ ☆STAND UP TAKE ACTION☆プロジェクト	高	震災による被害に見舞われた石巻の高校生や東京都の高校生と東日本大震災、原子力災害や津波被害について語り合うことで、現時点で問題点を話し合う。さらに、PR活動パンフレットを作成、各校やイベントで配布することで広く多くの方々にその活動の周知を図り、目的とする福島の安全性のPRと自分たちの活動を理解してもらうことを目的とする。 また、他県の高校生が本県の現状についてどのように考えているかを知ること、福島の高校生達が「立ち上がって、どんな行動をするべきなのか」を自分自身に問いかけ、創造し生み出すことで、福島をリードしていける人材に目覚めることを目的とする。
37	2	<b>一般社団法人Bridge for Fukushima</b> 福島・中国高校生社会課題解決型企画 「あいでみ」	高	福島の復興課題や社会課題に関心がある高校生と、日本ならびに福島の現状に関心を持つ中国の高校生が、地域の復興を考え互いの地域が抱える課題を発見・分析し、自分たちが取りうる社会課題解決の手段や福島の現状を発信します。それにより「社会のために若い世代が主体的に努力する新たな福島」を伝え、福島に対する負のイメージ（原発事故・変化に乏しい。若者がいない）の払拭を行う事業です。具体的には、福島県内・中国上海市内の2か所で交流事業、福島県内で社会課題を解決するアプリを開発し、さらにその経験を生かして中国で社会課題解決プログラムの実施を行います。
38	2	<b>福島大学附属小学校</b> 夢にはばたく！ ふくしま発信プロジェクト	小	子どもたちの学習としてオリンピックを題材として取り上げ、東京で夢を叶えたオリンピック選手のお話を聞いたり、オリンピック委員会を訪問したりして課題追及のための調査を行う。さらに、福島で行われるオリンピック（野球）について、国内外にPR活動を行う。PR活動として、ポスター・パンフレットを作成したり、動画を作成したりし、福島のよさを県外に発信する活動を行うことで、福島の一員として福島のよさをPRし、本県のイメージアップに寄与することができるようにする。

39	2	<b>福島大学附属小学校</b> ふるさと福島大好き発信プロジェクト	小	故郷福島に誇りと愛情をもつ子どもを育成するために、3～5学年において総合的な学習の時間を中心とした、ダイナミックな単元構想の基、ひと・もの・ことと豊かにかかわる体験活動を通して、地域と共に、福島よさや自慢を発信したり、自分たちができることを実践したりしていこうとする子どもを育成することを目的とする。
40	2	<b>福島県中学生リーダーズサミット 実行委員会</b> 福島県中学生リーダーズサミット 中学生九州サミットin水俣	中	①福島県の将来に関心の高い中学生や高校生、青年、社会人が講演や情報交換を通して情報や志を共有し、福島県の身近な地域の課題を明らかにすると共に、未来に向けたイノベーションを起こせる人材育成の機会とする。 ②2泊3日の集団活動や地域貢献に関するワークショップや共同作業、熟議等を通して、福島県内の中学生および高校生、大学生リーダーの志や郷土愛、共同体意識を育む。 ③他県の生徒と交流を図ることにより、郷土福島のよさを再確認し、未来に向けたアクションプランを作成する。
41	2	<b>福島大学附属中学校</b> ふくしま復興応援 大使事業	中	全国の国立大学法人付属学校との交流事業の中に標記事業に係る活動を取り入れ、福島県の復興を発信する。 ○期日平成31年2月 ○冊子を作成し、その中で復興を発信する。
42	2	<b>特定非営利活動法人 アースウォーカーズ</b> 福島の中高生が国際交流を通じ 福島を発信するプロジェクト	中高	福島の中学生・高校生がオーストラリアの学校を訪問し、福島の復興の様子を伝える。 福島の中学生・高校生がオーストラリアの市民向けの講演で、福島の復興の様子を伝える。
43	2	<b>AIZU塾</b> 未来につなぐ絆2018 ～AIZU塾・萩市子どもたちとの交流～	小中高	昨年、福島県浜通りを訪問し、現地に行かなければ分からないこと、生の声を聞くこと、体験することは「百聞は一見に如かず」で、参加した者、皆が衝撃を受けた。マスメディアを通して知っている被害の大きさ以上のものを感じとった。「何かしなければ」「自分に何ができるだろう」と心が振るいたち、自分が住む会津という街への思い、浜通りへの思い、同じ福島県民として福島県をアピールしていきたいという気持ちが強まった。気持ちがあっても行動しないことは、知らないことと同じである。行動に移す一歩目として、自分たちが昨年見てきたこと、聞いたこと、感じたことを山口県萩市訪問にて発表、意見交換、交流を行う。そして、萩市の人と直接触れ合い、会津物産のPRを行う。
44	2	<b>中田郷民俗芸能保存会</b> 「災害支援の縁でつなぐ 第三日暮里小学校との交流」 ～震災を乗り越え伝承する民俗芸能 「中田ささら」を発表～	小	石川町と荒川区は、戦時中の第三日暮里小学校の学童疎開を縁に平成8年に相互防災協定を締結。東日本大震災では、荒川区民から農産物等購入支援や石川町への支援ツアーなど多数のご支援をいただきました。平成25年9月には中田地区を訪れ「中田のささら」を見学していただいた。 「中田のささら」は江戸中期から伝承されているもので、平成23年3月の大震災、27年3月の中谷第二小学校の石川小へ統合の中でも中田区民の絆を深めるために三匹獅子舞をはじめとする「中田のささら」を継続している。 一方、震災後7年が経過した中でも放射能への風評が根強く、福島が正しく理解されていないことも多いことから、子どもたちが元気に生活をしている状況を知っていただくため、関係の深い「第三日暮里小学校」で「中田のささら」発表する機会を得て、荒川区民の皆様には福島県の復興の状況を肌で感じていただくため取り組むものである。
45	2	<b>田島祇園祭屋台歌舞伎保存会</b> 田島祇園祭屋台歌舞伎でふくしまの 復興・元気を発信するプロジェクト	小	田島祇園祭屋台歌舞伎保存会では、東日本大震災後から田島小学校等、関係機関と連携し、「子どもたちの熱演で地域に元気を」をキャッチフレーズに子供歌舞伎の公演を実施して参りました。 昨年4月から、東武鉄道の新型特急「リバティ会津」の運行が開始され、首都圏からのアクセスがさらに便利になったことを契機に、本町と交流のある区市町村に協力を得ながら、首都圏から大勢の方にご来場いただき、歌舞伎の公演を実施いたします。 南会津町に来て、子どもたちの熱演を見てもらい、福島県の復興・元気に更には南会津町の魅力を実感していただきます。
46	2	<b>学校法人東稜学園福島東稜高等学校</b> 福島東稜高等学校特別進学コース 福島から世界へ ～福島の魅力在海外へ発信する プロジェクト～	高	2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックと、これからの日本は海外からの旅行者の増加が見込まれている。生徒たちは、復興に取り組む福島県の姿と、この福島ならではの魅力を学習しまとめ、海外研修の訪問地ニュージーランド（アリフリストン校）にて福島をPRするプレゼンテーションを行う。また、帰国後には福島を訪れている留学生と協働で、いかにして福島に海外の観光客を引きつけられるかを考えながら、さらなる福島の魅力についてアピールするための動画制作を行い、発信につなげる。

47	2	<p><b>福島県立新地高等学校生徒会</b>          高校生が震災風化を防ぎ被災地の想いを繋げるプロジェクト</p>	高	<p>①津波被害のあった新地町で、高校生の立場で震災を風化させないことを目的とした追悼記念樹「おもひの木」プロジェクトの月命日でのイベントの企画・実施をすることで全校生徒への防災教育へとつなげる。          ②新地町で震災後に毎年開催されている復興イベント「やりしかねえべ祭」や町内文化祭・産業祭に参加して、「おもひの木」プロジェクトと震災遺族の想いを伝える「おもひの木」ポスターの紹介をする。          ③追悼記念樹「おもひの木」に関連したロゴを使用した記念品を製作し、本校生徒の「おもひの木」プロジェクトやボランティア活動の様子を情報発信し復興へ繋げる。          ④県内はもとより宮城県、岩手県の被災地の高校生徒との交流を通じて、震災の記憶を後世にへつなぎ、復興の状況を説明し、本県の風評払拭のための活動を行い、HP・SNS、マスメディア等を活用し、情報発信を実施する。</p>
48	2	<p><b>福島県立福島高等学校PTA</b>          Radiation Protection Workshop          in Fukushima 2018          (国際高校生放射線防護ワークショップ2018)</p>	高	<p>放射線および福島復興に向けた教育の重要性を踏まえ、福島県内の生徒が県外海外の生徒と共に震災や原発事故とその復興への課題について体験的に学び、さらに学んだことをまとめ発表することで、福島の課題についての理解を深めると共に、生徒の国際的な発信力を高めることを目的とする。</p>
49	2	<p><b>国立大学法人福島大学</b>          地方創生イノベーションスクール          2030          ～海外の生徒との協働プロジェクト          実施～</p>	高	<p>OECD東北スクールの成果を踏まえ、被災した中高生や地方の生徒達が海外や地域・企業等の多様な人々と協働しながら地域課題解決のための「プロジェクト学習」に取り組む。この活動を通して21世紀型スキルを涵養するための教育モデルの開発と、生徒の力をいかしながら地域課題を解決する地方創生モデルの創出につなげる。          具体的には、オリンピック・パラリンピック開催のある2020年に、生徒による国際会議の「福島」での開催に向けて、海外の同世代と連携をしながら組織を構築し、グローバルな視点での課題解決に取り組む。</p>
50	2	<p><b>特定非営利活動法人</b>  <b>アースウォーカーズ</b>          福島を伝え、再生エネルギーを学ぶ          2018福島・ドイツ高校生交流          プロジェクト</p>	高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島の高校生が東日本大震災から7年間の状況をドイツや東京で報告。</li> <li>・ドイツ各地で再生可能エネルギーを学び、帰国後福島のエネルギー学習会などで福島の復興に繋げる。</li> <li>・ドイツの高校を訪問し、現地の高校生と東日本大震災やエネルギーについて交流。</li> <li>・帰国後、国内各地で報告会をし、福島の現状とエネルギーについて高校生が報告。</li> </ul>
51	2	<p><b>ガールスカウト福島県連盟</b>          ふくしま防災・減災プロジェクト</p>	小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが地域の復興を考え、防災・減災に関するテーマ別のオリジナル紙芝居を制作する。さらに、ガールスカウトの組織力を活かしながら復興大使として県内外に出向いて上演することにより、元気な福島を発信する。</li> <li>・震災後数多くの制約を体験してきた福島の子どもたちが、ガールスカウトの技術を活かしながら防災プログラムの体験やキャンプ生活を通して将来の災害に備える知識を醸成し、広く社会にアピールする。</li> <li>・ガールスカウト教育が目指している「自ら考え」「自ら判断し」「自ら行動を起こす」を実践することにより、防災力を身に付け自分で自分の身を守るようになった達成感を味わうと共に、その力を地域社会に役立てるようにする。</li> </ul>
52	2	<p><b>平商Mahaloha (マハロハ)</b>          平商フラダンス大使福島から          笑顔を届けるプロジェクト          —地域文化の伝承と地域活性化を担う          リーダー育成事業—</p>	高	<p>(1)本校の部活動の一つである愛好会「フラダンス愛好会」は、社会性を身につけ、豊かな心と健全な身体を育むことや日本全国の様々な方々と交流を図る目的で、地元の講師の方のご指導をいただき活動をしている会である。          (2)本校では、平成23年頃から会を起し現在に至っている。          (3)フラダンスのフラは、文字を持たなかった先史時代のハワイで、歴史の継承という重要な役割を担っており、本来、精神的で奥深さをあわせもつものである。          (4)常磐炭鉱の閉鎖にともなういわき市常磐地区のマイナスをプラスに転じるという発想から創出されたフラダンス。「震災」、「原発事故」というマイナスを「元気」に「華やか」に「心を込めて」踊ることで、今をきちんと見つめプラスへと転じていく姿を届けたいという思いから活動を続けている。          (5)復興に努力している地元へ貢献したいという思いから、様々なイベントでの演舞や老人介護施設の慰問、県内被災地での慰問演舞を行ってきた。          (6)そこで、この事業を活用させていただき、浜通りに伝わる文化伝承を元気に活動することで福島の復興をアピールしながら笑顔を届け、さらにこの活動が風評を払拭する一助となっていることを他県の方々にもお披露目できればと考えた。</p>
53	2	<p><b>朝河貫一博士顕彰協会</b>          朝河貫一博士没後70年          朝河貫一受賞高校生海外研修事業</p>	高	<p>朝河博士の没後70年にあたり、福島県内の中学・高校生による優れた国際理解・国際交流論文に与えられる「朝河貫一賞」受賞者を朝河博士の学んだアメリカ・ダートマス大学、イェール大学に派遣し、朝河博士の生き方や足跡に直接触れさせるとともに現地の人々との交流を通して福島の現状を力強く発信し、相互理解を深めることで国際性豊かな人材の育成を図ろうとするものである。</p>

54	2	<b>ふくしまバトン</b> 踊りで届ける！福島の今、私たちの想い	小中高	第一回目の「福島から国内外へ発信する活動」を行う。目的は、「人は支え合うことができるということを世界中に発信する」という目標を第一歩として、福島の子供達の元気を生かし、福島の踊りと共にメッセージを発信することとする。 日本橋ふくしま館にて、福島の特産品や農作物を販売または試食会をする。ステージ上では、メッセージと共に日本の踊りを披露する。セシオン杉並ホールにて杉並区文化祭に参加する。同じくメッセージを入れながら日本の踊りを披露する。
55	2	<b>被災地からの発信・心の復興支援事業 実行委員会</b> モバイル・シアター・マシンの製作と 福島の元気発信事業	高	福島県立福島工業高等学校と連携し、美術家、やなぎみわ氏の指導のもとに京都工芸繊維大学、香川高等専門学校、群馬工業高等専門学校と協働して「モバイル・シアター・マシーン（演じるロボット）」を製作。各校がそれぞれ製作したロボットによるパフォーマンス（演劇）を、今年度は高松市美術館で実施する。製作過程における県外各校との協働作業、交流を通じて福島の今を生きる生徒たちの姿を知ってもらうとともに、公演にあわせた発表において、生徒自身によって被災地である福島の現状や復興の状況・課題、そして自分たちの未来に向けた思いを伝え、福島の元気を全国に発信する事業である。
56	2	<b>会津坂下町立坂下東小学校</b> ブラジルに福島の元気を届けよう	小中	1985年に会津坂下町金上地区に住む成田氏が福島県農業研修生としてブラジルを訪れたことをきっかけとしてサンパウロにあるホベルト・ノリオ校と金上小学校との交流が始まった。ホベルト・ノリオ校は今まで12回来日し、会津坂下町の児童宅にホームステイをするとともに、坂下東小（統合前は金上小学校）に統合しても、交流事業を引き継ぎ、授業や日本の文化に触れる活動をするなどの交流をしてきた。坂下東小（金上小での訪問を含む）からは5回ブラジルに渡り、ホームステイをしながらブラジルの文化を学び交流を深めてきた。継続的な交流を進めるために2016年1月に坂下東小学校とホベルト・ノリオ校は姉妹校の締結をしている。2018年1月に来日された際、日本からブラジルへ移住された関係者の多くが東日本大震災後の福島県の様子について心配されていることをホベルト・ノリオ校の校長より知らされた。そこで、今年の7月にブラジルを訪問し、福島県人会の方々に福島県の復興の様子や日本の文化（合奏や昔遊び、読み聞かせ等）を伝える機会を設定することにした。この交流を通して福島県の元気を発信していきたい。そして、子どもたちの世界観を広げ福島県の復興に寄与する人材を育成したいと考えている。
57	2	<b>一般社団法人 ヴォイス・オブ・フクシマ</b> 富岡町立小中学校＜三春校＞ 映像記録制作・発信事業	小中	原発事故により全町避難となった双葉郡富岡町。避難先の工場敷地・事務棟を仮設校舎とした「富岡町立小中学校＜三春校＞」は、震災から7年が経過した現在でも児童生徒らが学びを続けているが、平成34年3月末での閉校と建物の解体が決定している。本事業は、三春校に通う児童らが学校開校から閉校までの歩みや関係者・卒業生へのインタビューを通じてその想いを学び、さらに児童ら自らテーマ・構成内容を決定し母校を広く人々に伝えるための映像作品を制作・公開する。加えて、富岡町公式のSNS等を活用した記録映像の制作過程を富岡町民や関係者に発信活動を行うことで児童ら自らも母校の歴史の一員であることを自覚し、「三春校の今」を発信する力を養いながら、離れて暮らす三春校児童生徒と富岡町民をつなぐ。この2つの活動を子どもたちが自ら考え実行していくことで震災からの母校の変遷・復興への歩みを発信する。
58	2	<b>特定非営利活動法人未来/チカラ</b> 子ども農業大使 会津×恩納村交流事業	小	子どもたちが会津の野菜を自分たちの手で育て、農業体験を通して地域と農業の現状を理解した後に、自分たちの育てた野菜を、交流のある沖縄県恩納村で販売する。福島県産の野菜の風評被害払拭のためにも、他地域で自分たちの農産物をPRし、福島の食文化も発信することにより、郷土を愛する心を育む。
59	2	<b>NPO法人福島青年管弦楽団</b> 音楽研修事業2018 in福島・東京	中高	福島と東京の2都市において、福島の中高生と外国人音楽家らが音楽研修を実施する。東京研修では、日本を代表するクラシック音楽専用ホールであるサントリーホールで開催する東京公演において、子どもたちの「音楽を通じて福島の今を伝えたい、福島の復興に貢献したい」という強い想いをクラシックの名曲にのせて、東京や世界に向けて力強く発信することを目的に本事業を実施する。
60	2	<b>會津田島太鼓保存会</b> 【ふくしま復興PR演奏】 ～豊後に集い 明日への鼓動～	小中高	震災による風評被害の払拭、風化防止を図るため、第38回国民文化祭おおいだ2018へ参加し、多くの方々に福島のよさをアピールし、福島が元気であることを発信すると共に、県外の太鼓団体、及びその指導者の連携を強化することで、交流の輪を広げ県外での復興PR活動の場を広げる。また小中高生主体で地域の伝承を元にした曲を創作・演奏し、事業を作り上げていくことで郷土愛を育み、児童の積極性、自主性を伸ばし、福島を担う人材を育成することを目的とする。
61	2	<b>特定非営利活動法人チームふくしま</b> ふくしまの元気で感謝を伝えよう！ ひまわりプロジェクト	小中高	福島県の子どもたちが「福島を応援しよう」と全国から届けられたひまわりの種を育て、咲いたひまわりを福島県内の駅などに並べる。福島県内・県外問わず訪れた方々に元気を与え、復興のシンボルとする。その過程の中で、思いやりの心や道徳心を育み、福島の復興をアピールする。そして、その咲いたひまわりを用いて、「ひまわりの杖」「ひまわり染め」作りや「ひまわり絵葉書」作りを行い、全国のひまわりを育てている方々へ感謝の気持ちとしてプレゼントする。



62	2	<b>一般社団法人ベテランママの会</b> 語りつぐ 私たちのふくしま発信 プロジェクト	小	<p>まだ物心つくまえに東日本大震災を経験した福島県南相馬市内の小学生が、地域内でインタビューを通して震災以前および発災直後の地域の様子を学び、県外（東京）で学びの成果を発表する。</p> <p>県内での震災の記憶の風化と、県外での福島への関心の風化を解消を図ると共に、次世代の福島を担う人材がふるさとへの愛着と誇りを持ち、次の災害に備え、自己肯定感を持って育つ契機となる事業である。</p>
63	2	<b>一般社団法人</b> <b>ヴォイス・オブ・フクシマ</b> 双葉郡等の小学生による未来会議の 記録制作・発信事業	小	<p>双葉郡では、原発事故の避難等により、未だに避難指示が解除されない町や地域を抱える。また、再開している小学校のほとんどが児童数の少ない中で、教育活動を展開している状況にある。双葉郡内の小・中・高等学校では、「ふるさと創造学」等の取組により、それぞれのふるさとを知り、未来を創造するための探求的な学習を、総合的な学習の時間の中心に進めている。一方、郡内の子供たちが学校の垣根を越えて集まり、じっくりと意見交換を行う機会が乏しい状況である。</p> <p>本事業では、双葉郡内の小学校4・5・6年生の児童を対象にし、「未来の理想の学校」等のテーマについての意見交換の場を設定する。さらに、参加した子供たちがテーマの設定から話し合う内容等も含めて、主体的・対話的に子供たちが主体で意見交換が進むよう、ファシリテータを招聘することや、福島県内の他地域の児童の意見等にも触れられるよう事前の取材等も工夫する。この取組や会議の様子の記録を、動画に編集して県内外の多くの人々の視聴を可能にして、福島県内の子供たちへの理解を深めていただき、福島県の現状理解の一助としたい。</p>
64	2	<b>南会津町立南会津中学校3学年</b> 南会津町のよさと元気発信！ In墨田区キラキラ橋商店街	中	<p>(1)自分たちが生まれ育った地域の食文化や特産品について調べ、震災から7年、地域復興を目指し風評被害の払拭に向け頑張る地域の方々から農産物の特色や生産活動について学ぶことにより、郷土への誇りと地域復興に向けた意欲を養う。</p> <p>(2)修学旅行のキャリア学習の一環として、自分たちができる地域PR活動を企画し、東京都墨田区商店街と連携して特産品の販売や南会津町のPR活動を実践することにより、これからの南会津町、そして福島県の復興を担う生徒の育成を図る。</p>
65	2	<b>田村市立都路小学校</b> 自分たちの力で都路を盛り上げよう	小	<p>前年度まで「震災で失った活気や笑顔を取り戻すために、多くの人に地域のよさを伝え、訪れて欲しいという思いを持って活動する。そのために、卒業生が開発した『都路キュウリマン（キュウリジャム）』を特産品として販売する活動を行う。児童自ら販売を企画・実施することで、地元都路のよさをPRするだけでなく、風評被害の払拭と将来への希望を発信していく。」ことを実施してきた。今年度はさらにこの活動を県内外に広げていくことを目標に掲げて活動していく。</p>
66	2	<b>子ども剣士育成支援会</b> 会津一熊本「サムライ魂」でつなぐ 子どもの絆	小	<p>旧会津藩家老・佐川官兵衛ゆかりの地である会津一熊本、震災のあった福島県と熊本県の子どもたちが剣道や剣舞を通して交流し、熊本県内にて元気と会津の魅力発信する。また、子供たちが震災から復興する福島の姿や地域の歴史（旧会津藩家老・佐川官兵衛、白虎隊）を学び、それらを他地区の子どもたちに伝える活動を通して、自分の郷土に対する愛着を深め、地域に役立てる人間へと成長していくことを支援する。</p>
67	2	<b>富岡町立富岡第一・第二小学校</b> 富岡町立小学校児童と明星小学校児童の 交流授業	小	<p>三春町と富岡町の学校に通う富岡町立小学校5・6年生児童8名が復興大使となって、「総合的な学習の時間」を中心に、ふるさと「富岡」について学んだ「ひと」「もの」「こと」について、東京都の明星小学校児童に直接伝えることによって、ふくしまの復興を児童自らが切り拓いていることを知ってもらおう。</p>
68	2	<b>特定非営利活動法人</b> <b>劇団スターキャスト</b> 被災地子供たちによるふくしま復興 ミュージカル創作支援事業	小 中 高	<p>県内の子どもたちが、芸能界で活躍する現役の脚本演出家、振付師、歌唱指導家のアドバイスを受けながら、ミュージカル創作や全国公演を展開。「ふくしまのアピール」をし創造する力を育み、公演成功に向かって互い協力し合い挑戦し続け、「復興するふくしま」を公演等を通して、全国へ情報発信することで風評払拭、「福島ロス」「震災ロス」を予防する。</p>
69	2	<b>福島県立福島南高等学校</b> ふくしま笑顔発信プロジェクト 「こらんしょ」	高	<p>沖縄での民泊体験などの機会に、原発事故から7年が経過した福島県の現状と魅力を伝えることで、福島県に対する誤解を払拭するとともに、福島県への関心を高めてもらえるよう情報発信を行う。また、福島県の今や魅力を客観的に見つめ直す活動を通して、生徒が郷土への愛着と課題を確認し、今後の復興に不可欠な定住人口の確保と人材育成につなげる。</p>
70	2	<b>息吹公演事務局</b> 息吹ふくしまの元気発信事業H30年度	小 中 高	<p>現代版組踊推進協議会へ加盟する団体に所属する児童生徒との交流及びこれまで全国18カ所35回公演13,379名にご覧いただいた舞台、現代版組踊「息吹～南山義民喜四郎伝」での交流から生まれた鹿児島県伊佐市で開催される現代版組踊「鬼武蔵～TADAMOTO忠元」公演に出演し、戊辰戦争150年をむかえた薩摩と会津両地域の児童生徒が自分たちの住む地域の歴史を学ぶと共に、福島に芽吹く次世代の息吹を感じてもらおうことで福島の元気を発信する。</p>
71	2	<b>福島民報社復興戦略実行委員会</b> ふくしま復興大使 国内訪問活動	中 高	<p>2018年度に中学生以上の県民から公募した中学・高校生が「ふくしま復興大使」として東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興へ進む今の福島の姿や県民の思いを県外の訪問先で発信し、風評の払拭につなげる。訪問先では先進的な地域づくりも学び、自らの地域や学校生活などで生かしていく。</p>

72	2	郡山市立喜久田小学校 特設マーチングバンド部 福島から沖縄の仲間へ ～元気と感謝と福島の「今」を 伝えよう！～	小中	○2011年3月の東日本大震災から、変わらぬ応援をいただいている沖縄の皆様へ、「第24回スーパーマーチング2018」でパフォーマンスを披露し、これまでの応援への感謝を伝えると共に、元気を届ける。 ○演奏会参加バンドとの交流会において、パネルなどを使い、ワークショップ形式で、震災後の福島の様子を紹介する「福島県紹介コーナー」を設置し、発表を行う。 ○「福島県紹介コーナー」では、子どもたちが作成したリーフレットを配布する。
73	3	学校法人国際総合学園 ふくしまデザインコンテスト2018	小中高	実行委員の生徒達が主体となり、福島県内の中学生から「ふくしま」をテーマとした作品（キャラクター・マンガ・ファッション・ネイル）を募集し、受賞作品を広く県内外で展示し発信していく。
74	3	福島県高等学校教育研究会農業部会 ふくしまから美味しさと元気を発信！ ～ふくしま復興マルシェ～	高	日頃、福島県内の農業高校で学ぶ高校生が、農業実習で栽培した生産物や加工食品、復興6次化新商品などを首都圏で販売することで福島のおいしさと安心・安全のPRを推進する。福島農業高校生がその専門性を生かして主体的かつ意欲的に社会体験活動に参加することにより、各高校の代表生徒が首都圏で充実した販売実習を展開する他、インターネット販売の企画・運営に積極的に取り組む事業である。また、福島の復興PRに寄与するだけでなく、参加生徒の地域貢献に関する達成感など意識の変容などの将来の夢や進路目標の一助となる事業をめざす。 (1)ふくしま復興マルシェ（その1） 福島県内の農業高校生が農業実習で栽培した生産物や加工食品、復興6次化新商品などを首都圏で販売することで福島のおいしさと安心・安全をPRする。 (2)ふくしまの復興マルシェ～インターネット販売 福島県内の農業高校生が農業実習で栽培した生産物や加工食品、復興6次化新商品などをインターネットで全国に向けて販売することで福島のおいしさと安心・安全をPRし、復興に向けた福島県の農業高校の取組みを一層充実させるとともに、生徒が新たな流通や販売方法を学び、学習意欲や復興を担う次世代のリーダーとして意識の変容や意欲の向上を図る。 (3)ふくしま復興マルシェ（その2） 実施時期：平成31年2月中旬
75	3	特定非営利活動法人アイカラー 福島あがらっしゃい！ ふくしまのおいしい発信	小中	福島に住む子どもたちが自ら福島の農産物の良さを理解し、現状を知りながら「6次化商品」を考え、県外に発信する活動。
76	3	福島県立郡山商業高等学校商業研究部 郡商ブランド販売活動	高	郡山商業高校生が主体となり、高校で学んだ商業の知識を活かし、柔軟な発想で福島県産の食材を生かした商品開発から、広告・販売を行う。福島県産の食材を使った商品を全国へ発信することで、風評被害の払拭並びに食の安全を全国にPRしていく。
77	3	福島県立福島高等学校SSH部 福島高校SSHふっこうみどりうなぎプロジェクト	高	高校生発案の養殖したうなぎを提供する復興イベントを企画する。また、近年、高栄養価生物としてメディアでも注目されているミドリムシを含んだえさで養殖したうなぎの変化を化学的に検証しながら、うなぎに付加価値を見いだすとともに他の県にはないウナギの養殖県として新たな福島の魅力を展開する。
78	3	福島県立福島高等学校PTA 日英サイエンスワークショップ	高	イギリスの高校生、教員（30名程度）を日本に招き、東北地区の高校生、教員（30名程度）と共に東北大学での研究室活動、福島県や宮城県での震災復興関連活動、自然体験活動等を行う。この目的を達成するために、参加高校間の連携だけでなく、東北大学（日本）、クリフトン科学トラスト（英国）の協力を仰ぐ。
79	3	一般社団法人葛力創造舎 冊子づくりと商品開発を通じた広域での 高校生地域プレイヤー育成事業	高	震災により、県産品への風評被害が起り地域の生業の形態が変わった。生業は生活の景色を変化させ、地域の衰退へ拍車をかけた。本事業では、地域の次世代の担い手である県内高校生が冊子づくりを通して地域を知り、商品開発を通して地域を発信していく。また、同時に広域での集会を行い、広域連携の下地をつくる。
80	3	福島県立耶麻農業高等学校同窓会 山都蕎麦で絆をつなぐ ～高校生による手打ちそば店～	高	山都町は「そばの里」として知られている。この地域に耶麻農業高校があり、そば打ちを授業で行い、そば打ちの普及と技術の向上を行っている。日頃の練習の成果で、風評被害を吹き飛ばせないかと考え、日本の情報発信地である東京で、高校生による地元産のそば粉十割で、そば打ちの実演・販売することで、食の安全安心をPRする。そのために販売準備として、試食会を3回行い、当日に備える。
81	3	ひろの映像教育実行委員会 ふるさと創造・映像教育プロジェクト	中	中学生による映像制作をとおして、地域の文化と伝統を見つめ直すことにより、ふるさとの良さを再発見し、広野町の未来と地域の復興に貢献できる子どもたちを育成する「ふるさと創造学」に取り組む。
82	3	特定非営利活動法人コースター 高校生による 「ふくしま魅力発掘・発信」 プロジェクト	高	県内の高校生が、福島県の魅力や課題を学び、福島県をよりよくするためのプランを考え、それを実現するためのフォローを行うことで、福島県の復興に向けて活動する次世代人材の育成を行う。

83	3	<p align="center"><b>農業高校経営マーケティング プログラム協議会</b></p> <p>高校生による実践的六次化商品開発事業</p>	高	<p>経営コンサルティング会社・NPO・地元の農家らが講師となり、福島県内5校の農業高校で経営マーケティングに関する授業を実施し、その中で六次化商品開発を行います。この授業では、受講生である生徒92名が4～6名で模擬会社を作り、東京のマーケットを意識した商品開発、事業計画作成、販売戦略の立案、販売、決算、事業評価の一連の六次化商品開発のプロセスを1年かけて実践的に体験しながら学びます。2月には、合同で東京の既存マルシェに出店し、自分たちで開発した商品の実践販売を行ったうえで決算を行う合宿を行い、1年間の振り返りを行います。これにより、将来の地域復興や再生を担う高校生が、現地産品に高い競争力や付加価値をつけられるような製品開発力や課題解決力、更には経営に関する知識の習得がなされます。またグループワークを中心とした実践的授業を行うことで多様な価値観を尊重する姿勢や自分らしさの発信、グループで協力して行動する姿勢等のマインドが養われます。</p>
84	3	<p align="center"><b>福島県立小高産業技術高等学校 商業研究部</b></p> <p>相双6次化プロジェクト</p>	高	<p>本校生徒（商業研究部員）が「商業高校生にできる地域貢献・地域活性化」をテーマに活動しており、生産者・企業・消費者をつなぎ、笑顔と元気、そして幸せを届けたいという思いで、これまでに相馬地方の特産品「黄色いハートかぼちゃ（九重栗）」を使用した多くの商品を開発してきました。今回、新商品を持って今までの活動をさらに活性化させることで、小高区の復興の一助になればという想いが込められています。また地元の良さをPRするだけでなく、原発被災県で風評被害を受けている福島県南相馬市の高校生の力で福島県南相馬市の復興を広く発信する。さらに、商品開発や販売会を通して将来地域に貢献できる人材を育成する。</p>
85	3	<p align="center"><b>一般社団法人あすびと福島</b></p> <p>「高校生が伝えるふくしま食べる通信」 をみんなで読む会 ～福島的一次産業を深く知ろう～</p>	高	<p>県内の志ある生産者を取材し、全国の定期購読者約870名に届けている食材付き情報誌「高校生が伝えるふくしま食べる通信（以下こうふく通信）」は、弊社団が高校生の人材育成事業の一環として取り組んでいます。福島に対する風評の払拭に貢献したいという高校生たちの志を「食べる通信」を通して発信し、4年目の実績を重ねてきました。今回の事業では、3か月に1度季刊で発行しているこうふく通信発行後、高校生編集部、そして特集生産者とともに「食べる通信」を輪読しながらフェイストゥフェイスで福島の生産現場の今を共有し合う場を設け、福島の魅力発見や、食の安全、生産現場への理解を促進します。</p>